

# 意欲的に取り組める授業に関する研究

ーリレーに関する調査を通してー

児玉 健二郎 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 柴田 俊和

キーワード：楽しい活動，リレー，指導内容

## 1. 緒言

筆者は幼い頃から運動が好きで、体育の授業が楽しかった。筆者にとって、体育が嫌いな人の気持ちがどのようなものなのか理解できなかった。また、体育の授業が嫌い、好きということがおこるのかという疑問もあった。また、菅原(2011)が示した「意欲的に取り組むことができる楽しい活動」とは何かという疑問を持った。子どもたちが何を求めているのか、教員はどのような指導内容を考えているのかに興味を持った。

本研究では、筆者の専門種目である陸上競技のリレーを取り上げる。児童・生徒・教師のリレーに対する意識調査の結果を基に、陸上運動において意欲的に取り組める学習になるような指導内容を考察することを目的とした。

## 2. 研究方法

滋賀県M市立S小学校(5～6年生 男子32名、女子24名、教師9名、計65名)、滋賀県M市立D中学校(1～3年生 男子130名、女子118名、教師3名、計248名)、合計、男子162名、女子142名、教師12名、総計316名を対象にリレーに関する実態調査を実施した。

## 3. 結果と考察

調査データの集計結果から、体が成長するにつれて、リレーが嫌いとする割合が増加していることがわかった。

リレーの授業が楽しいと思うのは、競争に勝った喜びや達成感がでる時である。成長したという証がでることや、友達と交流したり、交流の少ない友達と仲を深める場となっているから、楽しいと答えている。

リレーの授業で楽しくないと思うのは、「走りがおそいから」「順位が上がらないから」「タイムがのびないから」という回答が多い。リレーは、個人の走能力と、メンバーの総合能力、バトンパスの技術が、チームの成績やチームの記録向上につながる。だから、運動能力の差がそのまま嫌いにつながっているのだろう。個人の記録ののび方を重視するとともに、リレーでは、男女混合や、遅い児童・生徒と速い児童・

生徒を混ぜたチームづくりによって、勝敗に考慮していく必要がある。遅い児童・生徒にも競争意欲をもたせ、勝利の経験を味わわせる指導をすべきである。

授業改善として、バトンパスのコツを教えてほしいという意見が多い。教師(指導者)はコツを具体的に指導しなくてはならないと考える。また、先生が参加することで見本にもなり、印象が残りやすいと考える。

教師の調査結果において、子どもたちがリレーの授業で楽しいと感じる時は、「バトンパスが上手くいった」という回答が多い。教師は、競争で勝つよりバトンパスが上手くいったときの快感が楽しいにつながると考えている。

子どもたちがリレーの授業で楽しくないと感じるのは、「友達とうまく協力できないから」「走りが遅いから」と捉えていることが明らかになった。教師は、子どもたちの間での問題が原因で楽しくないと感じているということを理解している。また、子どもたちが劣等感を感じていることを認識している教師が多いことも明らかになった。

教師が考える指導法は、競技意識だけではなく、レクリエーションといった遊びを取り入れた授業方法も楽しいのではないかと考える。

## 4. まとめ

リレーに関する調査から、楽しいと感じる要因として、児童・生徒をとりまくクラスの雰囲気や交友関係、個人の運動能力、教師の助言、指示、ほめる、などがあると考えられる。

しかし、考案した内容の授業を行っていないため、意欲的に取り組めさせることができるという証明にはならない。今後、考案した内容を実践することが本研究の課題である。

## 引用・参考文献

1. 河合沙知(2008) 体育嫌いの生徒を体育好きにさせる授業に関する考察-長距離走に関する調査を通して、びわこ成蹊スポーツ大学卒業研究。
2. 菅原健次(2011) 小学校 体育指導の基本 Q&A, 文部科学省, pp.33-39.